

屋形遺跡
林道宮本聖谷線開設予定地内
埋蔵文化財発掘調査報告書 I

2004年7月

島根県出雲農林振興センター
島根県多伎町教育委員会

屋形遺跡
林道宮本聖谷線開設予定地内
埋蔵文化財発掘調査報告書 I

2004年7月

島根県出雲農林振興センター
島根県多伎町教育委員会



多伎町屋形遺跡周辺遠景（航空写真）

巻頭カラー2



石垣
(西より)



石垣断面
(南より)



石垣調査後
(西より)



14-1



14-1



9-5



9-4



7-1



A



14-2



9-1



9-2



9-3

屋形遺跡出土遺物

序

島根県出雲農林振興センターにおいては、森林整備の推進、および山村地域の生活環境の向上に資するため、林道の整備を実施しているところです。

林道宮本聖谷線は、多伎町小田地区と奥田儀地区を連絡し、高性能林業機械の導入による、効率的な林業経営を可能とするための基幹的林道として、また、災害時の迂回路として計画され、平成9年度より整備を進めています。

林道整備に際しては、埋蔵文化財の保護にも充分配慮しつつ関係機関と協議しながら進めていますが、避けることのできない文化財については、事業者の負担により必要な調査を実施しております。

本事業においても、林道予定地内にある埋蔵文化財について、島根県教育委員会と協議し、同教育委員会及び多伎町教育委員会のご協力のもと、平成16年3月より発掘調査を実施してきました。

本報告書は「屋形遺跡」の調査結果をまとめたものであり、郷土の埋蔵文化財に関する貴重な資料として学術および教育のために広く利用されるとともに、林道事業が埋蔵文化財の保護にも充分配慮しつつ実施していることへのご理解をいただくことを期待するものです。

最後に、今回の発掘調査および本書の編集にあたり、ご指導、ご協力をいただいた島根県教育委員会ならびに関係各位に対し心より謝意を表すものであります。

平成16年7月

島根県出雲農林振興センター
所長 星野 善樹

序

林道宮本聖谷線は、島根県農林振興センターによって、多伎町小田地区と奥田儀地区を連絡し、効率的な林業経営を可能とするための基幹的林道として、また、災害時の迂回路として計画され、平成9年度より整備が進められています。

多伎町教育委員会では、島根県出雲農林振興センターの委託を受け、今年度より林道宮本聖谷線開設予定地内の埋蔵文化財発掘調査を実施することになりました。

本書は平成16年4月～6月に発掘調査を行った「屋形遺跡」の成果をまとめたものです。本報告書が、郷土の埋蔵文化財に関する貴重な資料として学術および教育のために広く利用されることを期待しております。

屋形遺跡を含めた多伎町奥田儀の宮本の谷は、江戸時代初め以来、田儀櫻井家が約250年にわたり 代々たたら製鉄業を営んだ地であり、その規模は「奥出雲の三大鉄師」として知られる田部家、絲原家、仁多（可部屋）櫻井家に次ぐものでした。同時に櫻井家は公共事業面でも田畠の開墾、道路の開削など大きな事績を残しました。

宮本鍛冶屋跡は櫻井家が去り、鍛冶の火が消えた現在、往時の賑わいも無く人里離れた山奥の観を呈しておりますが、「宮本史跡保存会」の方々の献身的な維持管理活動により 遺跡としては、荒廃から守られ良好な状態で残存しております。

今後、田儀櫻井家が経営したふるさとの一大事業の歴史的・文化的価値を明らかにし、この貴重な遺跡を次世代へ伝えていく計画も進行しております。

最後に、今回の発掘調査および本書の編集にあたりましては、ご指導、ご協力をいただいた地元の方々や島根県農林振興センター、島根県教育委員会、調査現場で便宜を図っていただいた地元田儀の㈱山下工務所をはじめ関係の皆様に対して心からお礼を申しあげます。

平成16年7月

多伎町教育委員会

教育長 烏屋原 敏夫

例　　言

- 1 本書は、鳥根県出雲農林振興センターの委託を受けて多伎町教育委員会が平成16年度に実施した林道宮本型谷線開設予定地内埋蔵文化財発掘調査の記録である。
- 2 本書で扱う遺跡は、鳥根県簸川郡多伎町大字奥田儀 467-8外 所在 屋形遺跡 である。
- 3 調査組織は下記のとおりである。

調査主体	多伎町教育委員会
事務局	鳥屋原 敏夫（多伎町教育委員会教育長）、三原 順子（同教育課長）、山本 春美 （同社会教育指導員）、常刀 桂子（同社会教育指導員）
調査員	田中 義昭（鳥根県文化財保護審議会委員）、阿部 智子（多伎町教育委員会臨時職）
- 4 現地調査にあたっては下記の方々から指導を受けた。（五十音順、敬称略、役職名は当時）

原田 敏照（鳥根県教育庁文化財課文化財保護主事）
東森 晋（同文化財保護主事）
- 5 発掘作業は下記の方々が行った。（五十音順、敬称略）

足立 今栄、石飛 すみえ、江角 ひろみ、大国 健次、齋藤 淳一、武田 淑子、原 ミチ子 福庭 正

- 6 現地調査及び報告書の作成に際しては、調査指導者の他、以下の方々から有益なご指導・御助言・ご協力をいただいた。（五十音順、敬称略、役職名は当時）

穴澤 義功（製鉄遺跡研究会代表）、大野 篤美（千葉工業大学名誉教授）、西尾 克巳（鳥根県 教育庁文化財課副主査）、丹羽野 裕（同主幹）、角田 徳幸（島根県埋蔵文化財センター主幹）、 守岡 正司（同保護主事）、松尾 光晶（同主事）
--
- 7 採図で使用した方位は、測量法による第Ⅲ座標系のX軸方位を示し、平面直角座標系XYは日本
測地系による。またレベル高は海拔を示す。
- 8 本書に使用した写真のうち、巻頭カラー1は㈱ワールドが写真合成を行ったものを使用した。
- 9 本書に使用した図のうち、第2図、第3図は国土地理院発行のものを、第5図、第11図は㈱ワ
ールドが作成した平板地形測量図をそれぞれ使用した。
- 10 本書の執筆及び編集は田中義昭の指示で阿部と江角が行った。
- 11 本書に掲載した遺物実測、写真撮影は阿部が行い、遺物遺構実測図の整理、浄書は江角が行った。
- 12 本書掲載の遺物、実測図、写真などの資料は、鳥根県簸川郡多伎町大字小田73 多伎町教育委
員会で保管している。

凡　　例

- 1 本文、採図及び写真図版の遺物番号は一致する。

本文目次

第1章 調査に至る経緯	1
第2章 位置と歴史的環境	2
第3章 調査の結果	7
第1節 発掘調査の経過と遺跡の概要	7
第2節 I区の調査	8
第3節 石垣の調査	9
第4節 II区の調査	11
第5節 III区の調査	13
第6節 IV区の調査	16
第4章 まとめ	19

表目次

第1表 林道宮本聖谷線開設予定地内遺跡一覧	1
第2表 屋形遺跡周辺の遺跡	4
第3表 屋形遺跡周辺の製鉄関連遺跡	6
第4表 砂鉄の割合	13
第5表 屋形遺跡出土陶磁器観察表	18
第6表 屋形遺跡出土石器観察表	18
第7表 屋形遺跡出土鉄関係遺物観察表	18
第8表 屋形遺跡周辺 墓石の銘文表	19

挿図目次

第1図 調査対象位置図	1
第2図 屋形遺跡周辺の遺跡	3
第3図 屋形遺跡周辺の製鉄関連遺跡	5
第4図 林道宮本聖谷線開設予定地内遺跡と計画路線図	7
第5図 屋形遺跡全体と調査区配置、道路開設予定図	8
第6図 I区実測図	9
第7図 I～III区出土石器実測図	9
第8図 石垣実測図	10
第9図 II、III区出土遺物実測図	11
第10図 II区実測図	12
第11図 炭の分布	13
第12図 III区実測図	14

第13図	P 4、P 5遺構実測図	15
第14図	IV区出土遺物実測図	16
第15図	P 6～P 11遺構実測図	16
第16図	IV区実測図	17
第17図	屋形遺跡周辺の墓石	19

写真図版目次

卷頭カラー1	多伎町屋形遺跡周辺遠景（航空写真）	
卷頭カラー2	石垣（西より） 石垣断面（南より） 石垣調査後（西より）	
卷頭カラー3	屋形遺跡出土遺物	
図版1	III区調査前（南より） III区完掘状況（南より） I～II区、石垣（西より）	I～II区、石垣調査後（西より）
図版2	I～II区、石垣調査前（西より） 石垣（南より） II区遺物出土状況（北より）	II区遺物出土状況（東より） III区遺物出土状況（西より）
図版3	II区西側遺構検出状況（南より） P 2 遺物出土状況（南より） P 2 上層堆積状況（南より） P 2 完掘状況（南より）	II区東側遺構検出状況（南より） P 1 完掘状況（南より） P 3 土層堆積状況（南より） P 3 完掘状況（南より）
図版4	III区炭の分布（東より） II区炭の分布（東より） I区遺物出土状況（南より）	IV区炭の分布（東より） II区遺物出土状況（南より） III区完掘状況（東より）
図版5	P 4 石と据え方（東より） P 4 石と据え方（西より） III区石積み（南より） III区石積み完掘状況（東より）	P 4 石と据え方（北より） P 4 石と据え方（南より） III区石積み（北より） III区遺物出土状況（南より）
図版6	P 5 上層堆積状況（北より） P 5 完掘状況（西より） IV区遺構検出状況（東より） IV区遺物出土状況（南より）	II区西部石の配列（南より） IV区調査前（東より） IV区調査後（東より） IV区遺物出土状況（南より）

第1章 調査に至る経緯



第1図 調査対象位置図

たら製鉄の歴史展が開かれる。そして平成12年4月「第4次多伎町総合振興計画」に「宮本史跡公園整備事業」として遺跡の活用が計画される。平成15年7月に文化財課が踏査し田儀宮本櫻井家のたら製鉄に関する基礎調査の必要性を指摘、同11月に調査委員会が発足した。

林道宮本聖谷線開設の計画を受け、多伎町教育委員会（以下多伎教委）は、平成16年1月に島根県教育文化財課（以下文化財課）と分布調査を実施し、9箇所の遺跡の存在を確認している。同1月に農林センター・文化財課・多伎教委の3者が協議し、遺跡の取り扱いについて検討がなされた。同2月、農林センターが文化財課へ埋蔵文化財発掘の届出を提出。同3月、文化財課が農林センターへ屋形遺跡の発掘調査の指示を通知。同月、屋形遺跡の発掘調査業務を農林センターが多伎教委へ依頼。これを受け多伎教委が同4月より、発掘に着手した。

第1表 林道宮本聖谷線開設予定地内遺跡一覧（2004.6現在）

番号	遺跡名	種類	概要	備考
1	屋形遺跡	鉄生産関連遺跡	石垣、鉄滓、陶磁器、黒曜石	本書
2	掛橋鉢跡	鉄生産関連遺跡	石垣、鉄滓	
3	屋敷谷Ⅰ鉢跡	鉄生産関連遺跡	石垣	
4	屋敷谷Ⅱ鉢跡	鉄生産関連遺跡	石垣	
5	屋敷谷Ⅲ鉢跡	鉄生産関連遺跡	石垣	
6	聖谷奥Ⅰ遺跡	鉄生産関連遺跡	石垣	
7	聖谷奥Ⅱ遺跡	鉄生産関連遺跡	石垣	
8	聖谷鉢跡遺跡	鉄生産関連遺跡	石垣、鉄滓	平成16年度試掘調査予定
9	茗ヶ原奥鉢跡遺跡	鉄生産関連遺跡	鉄滓、鉄塊	平成16年度発掘調査予定

*番号は第4図と対応する

林道宮本聖谷線は、島根県簸川郡多伎町南西部の森林地帯を町道と連結させることにより、一体的な路網を整備し林業を活性化させる目的で、島根県出雲農林振興センター（以下農林センター）において、幅員5.0mの森林管理道として計画された。起点は多伎町大字小田（武上池）、終点は同町大字奥田儀（宮本）で総延長は7,100mである。

林道宮本聖谷線予定地は田儀櫻井家が江戸時代よりたら製鉄を操業していた宮本地区、宮本川の谷筋沿いに位置する。

平成6年に多伎町の文化財及び史跡の保存等を目的に地元の有志が宮本史跡保存会を発足。宮本史跡に関する調査、研究及びその保存活動を続けている。また平成9年には多伎町文化伝習館にて“たら製鉄”的歴史展が開かれた。

第2章 位置と歴史的環境

多伎町は、島根県の中央部、山陰地域海岸部の西端にあり、北緯35度15分、東経132度37分付近に位置している。町域は東西約8.2km、南北約10.8kmに及び、面積は55.15km²である。北は日本海に面し、東は湖陵町と佐田町に、南と西は大田市に接している。また、山系は概ね南北に走り山容は東より西に至るに従い急峻となり海岸近くまで迫っている。この山系に沿い田儀川、小田川、久村川の3河川が日本海に注いでいる。¹⁾

田儀地区を流れる田儀川は、大須川、宮本川、草井谷川、大年谷川、仙山川、坂之尾谷川などを合して田儀湾の西部で日本海に注いでいる。神戸川の支流、佐津目川と、田儀川との分水嶺付近は400m内外で最も高い。この分水嶺は、下佐津日の西方から、小田川との分水嶺となり、要害山、亀山と比較的高度を保ちながら海岸に達している。南東部の奥谷は小田川の上流である。²⁾

また多伎町における土地利用の状況は、宅地1.16km²(2.1%)、農用地2.86km²(5.2%)、林野37.91km²(68.9%)、その他雑種地など13.21km²(24.0%)と大部分を山林が占めている。³⁾

宮本は、田儀川の支流宮本川の上流、川口から約7kmの狭い谷間にあって、四方は急傾斜の山に囲まれている。ここに櫻井の本宅と金屋子神社、智光院、そして鍛冶屋を中心に関内に住宅が密集していた。

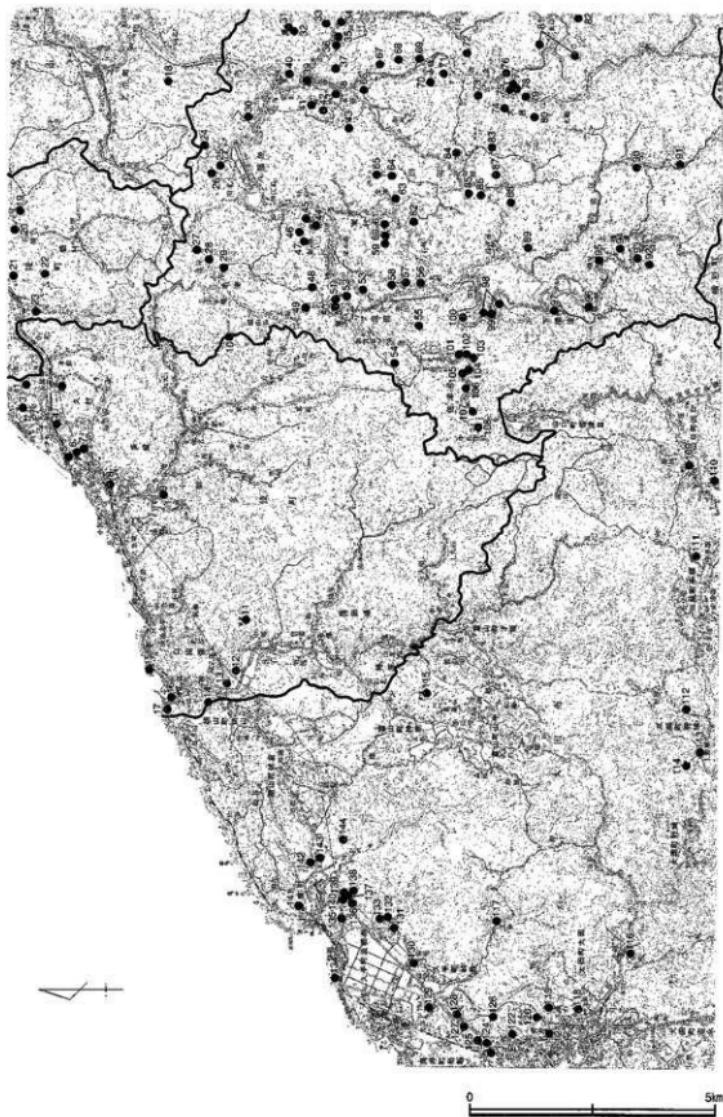
古代 昭和26(1951)年、経塚山古墳が発掘調査された。これは堅穴式石室の様相を帯び、勾玉・菅玉が出土した。5c中ごろ～6c中ごろの古墳時代のものと推定され、集落の存在が確かめられた。

奈良時代の天平5(733)年に撰上された「出雲國風土記」に「多伎郷。郡家の西南二十里、天下造らし大神の御子、阿陀加夜努志多伎吉比充命座しき。故多吉と云ふ。神龜3(726)年字を多伎と改む。」と記されているほか「奥田儀、口田儀、小田、多岐、久村等を併せて一郷と為す也」とあるように、古くからほぼ現在の町域が「多伎の郷」と呼ばれていた。多伎町は出雲国と石見国との境に位置し、「多伎の驛」「御番所」「常置剣」「椎剣」「戍」「烽」があると記され、石見へと続く「正西道」の交通の要所、国境の要地となっていた。

中世 戦国時代、尼子氏支配下で小野玄蕃が出雲西部の国境を守っていた鶴ヶ城跡が知られる。後に毛利輝元に敗れ、田儀城と改められた。⁴⁾

近世 田儀櫻井家初代、三郎左衛門直重(以後 直重)が奥田儀宮本へ米住し製鉄業を起こしたのは、寛永17(1640)年、徳川三代家光の頃で、松平直政が出雲の藩主として松江城へ入城したときから2年後のことである。その後、十二代櫻井勝之助直明(戸籍では洪造)が松江市に移住するまで約250年の間たたら製鉄事業が宮本の地を中心に操業された。⁵⁾

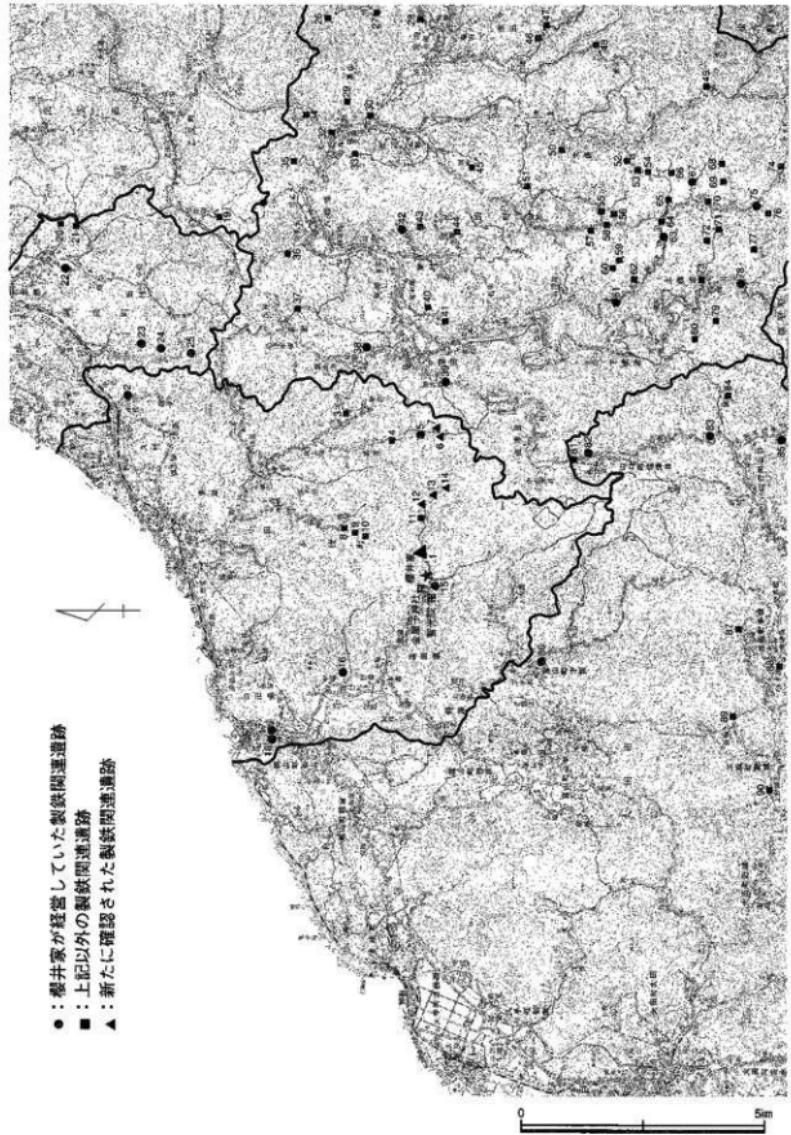
なお、櫻井家のたたら製鉄事業に関する詳細は、別刊行の『田儀櫻井家のたたら製鉄事業に関する基礎調査』に掲載されている。



第2図 屋形遺跡周辺の遺跡 (S=1/100,000)

第2表 屋形遺跡周辺の遺跡

番号	遺跡名	所在地	種別	番号	遺跡名	所在地	種別	
多 伎 町	鶴州久山田沢塚跡	久村 長沢山	古墳	73	三ノ宮城跡	大呂 三の宮	城跡	
	矢谷塚跡	久村 散布地	散布地	74	丸山城跡	大呂 上組	城跡	
	止南横穴群	久村 止南谷	横穴	75	反古墓群	大呂 下組	古墓	
	平垣城跡	久村 新治	城跡	76	童伏谷城跡	大呂 三の宮	城跡	
	砂屋古墳	多岐 砂原	古墳	77	八幡宮別言跡	大呂 上組	神社跡	
	砂原小山横穴群	多岐 砂原	横穴	78	六澤山城跡	大呂 上組	城跡	
	後谷横穴群	久村 後谷	蛇窓	79	坂本古墳	大呂 上組	古墳	
	小田古墳	小田	古墳	80	坂本堂代城跡	大呂 上組	城跡	
	竪ヶ土城跡	小田 葦沢	城跡	81	東山中城跡群	大呂 東二中	城跡	
	熊ヶ丸城跡	小田	城跡	82	河内神社跡	大呂 東山中	神社跡	
田 町	要苦山城跡	口田儀 中郷	城跡	83	人山城跡群	大呂 大山	城跡	
	舒城山古墳群	口田儀 塚尾谷口	古墳	84	高見城跡	大呂 御崎	城跡	
	新堅山横穴群	口田儀 塚尾谷口	横穴	85	坂根城跡	大呂 御崎	城跡	
	鶴ヶ城跡	口田儀 清武山	城跡	86	前岩瀬城跡	大呂 御崎	城跡	
	口田儀台場跡(1)	口田儀 町向	台場跡	87	岩瀬城跡	大呂 大山	城跡	
	口田儀台場跡(2)	口田儀 上司	台場跡	88	東山城跡	大呂 御崎	城跡	
	坂根城跡	乙立坂 坂根	城跡	89	城山城跡	高津原	城跡	
	芦古墳群	常楽寺	古墳	90	古野瓦窓跡	吉野	窓跡	
	赤土古墳群	常楽寺	古墳	91	古野丈山城跡	吉野	城跡	
	嵐山上古墳群	常楽寺	古墳	92	柳瀬城跡	上喜波	門曲	
湖 駿 町	神木田古墳	二添 鈴谷	古墳	93	柳瀬古墓	上喜波	門曲	
	要雪山城跡	二部 蛇谷	城跡	94	滴ヶ原城跡	「」喜波	横見	
	寺又古墳群	二部 蛇谷	古墳	95	樫見城跡	上喜波	城跡	
	24	二台山城跡	八幡原 脇下山	城跡	96	船造祭跡	上喜波	祭祀遺跡
	25	八幡原寺院跡	八幡原 ゴワン	古墳跡	97	小原・中山城跡	上喜波	古原
	26	八幡原城跡	八幡原 引杉	城跡	98	小池城跡	上喜波	日の出
	27	大丸丘塚跡	毛津 中東	古墳	99	小池古墓	上喜波	古墓
	28	毛津瓦窓跡	毛津 中東	窓跡	100	小池墓跡	上喜波	日の出
	29	後谷城跡群	手津野負側	城跡	101	佐佐木御山精霊所跡	佐佐木	長良
	30	舟津城跡	反辺 漢西	城跡	102	下佐津日奈紀跡	佐佐木	日奈紀
佐 川 町	31	黒山城跡	高内 御田	城跡	103	三味塙坑銅山精霊所跡	佐佐木	谷
	32	黒山遺跡	反辺 御田	祭祀遺跡	104	才ノ原城跡	佐佐木	日奈津
	33	羽山城跡	高内 御田	城跡	105	下佐津日奈紀跡	佐佐木	日奈紀
	34	南戸遺跡	高内 御田	古墓	106	中佐津日奈紀跡所跡	佐佐木	日奈紀
	35	栗毛遺跡	高内 御田	古墓	107	佐津日奈城跡	佐佐木	都原
	36	太平古墓群	高内 御田	古墓	108	宮田古墓	佐佐木	中佐津
	37	曾我里町城跡	反辺 町	城跡	109	鍋燒横穴	山口	横穴
	38	町・山伏原	反辺 町	古墓	110	豎谷瓦窓跡	山口	山口
	39	明神古墓群	反辺 町	古墓	111	多賀要塞古墓跡	三原	多賀
	40	屏風山城跡	反辺 慶正	城跡	112	上野城跡	大田 野城	石碑・墓碑
人 町	41	高橋城跡	反辺 慶正	城跡	113	円城寺下遺跡	大田 野城	石碑・墓碑
	42	高橋殿櫻臺	反辺 慶正	古墓	114	円城寺遺跡	大田 野城	石碑・墓碑
	43	横屋奥古墓	反辺 本郷	古墓	115	若山城跡	高山 山中	城跡
	44	栗原古墓	一葉田 栗原	古墓	116	立花横穴群	大田 立花	横穴
	45	栗原丸山古墓	一葉田 栗原	古墓	117	江谷横穴	九丁 利鹿	江谷 横穴
	46	古栗山城跡	一葉田 栗原	城跡	118	加土古墳	大田 加土	古墳
	47	飯の原...所神社跡	一葉田 飯の原	神社跡	119	城山城跡	大田 城山	城跡
	48	五谷山墓	一葉田 沢	古墓	120	城山古墳	大田 城山	古墳
	49	銀山山鋼山跡	一葉田 岩田	型鋼遺跡	121	円寺古墳穴群	大田 大沢	横穴
	50	伊孫城跡	一葉田 織	城跡	122	鈴木横穴群	大田 鈴木	横穴
市	51	伊佐山山腹の金穴穴	一葉田 織	空跡	123	猪友西横穴群	久手 利鹿	横穴
	52	智光寺古墓	一葉田 織	古墓	124	山田川大穴横穴群	久手 利鹿	横穴
	53	岸岡瓦窓跡	東村 仁江	古代遺跡	125	中横穴群	久手 諸友	横穴
	54	三丁山城跡	東村 仁江	城跡	126	中尾横穴	久手 諸友	横穴
	55	梅ヶ谷古墳群	疋田 司山	古墳	127	諸友大師山横穴群	久手 利鹿	諸友
	56	大塚古墳	一葉田 大塚	古墳	128	大波横穴群	久手 利鹿	横穴
	57	仁江瓦窓跡	一葉田 仁江	窓跡	129	竹原古墳	久手 利鹿	竹原 古墳
	58	仁江山墓	一葉田 仁江	古墓	130	鶴ヶ谷横穴群	久手 諸ヶ谷	横穴
	59	竪野城跡	東村 竪野	城跡	131	大西大師山横穴群	久手 波根西	横穴
	60	東村寺跡	東村 竪野	寺院跡	132	巖山横穴群	久手 中尾	横穴
東 町	61	竪野寺跡	東村 竪野	城跡	133	鈴木寺巖山横穴群	久手 正	横穴
	62	一丁山城跡	東村 竪野	城跡	134	鶴老城跡	久手 波根西	城跡
	63	輪の内城跡	東村 輪ノ内	城跡	135	岩山城跡	久手 利鹿	城跡
	64	二丁山城跡	東村 竪野	城跡	136	熊原寺横穴群	波根 露屋谷	横穴
	65	二丁山遺跡	東村 竪野	祭祀遺跡	137	中山古墳横穴	波根 露屋谷	横穴
	66	高西城跡	反辺 平田	城跡	138	西邊横穴	波根 西迫	横穴
	67	湯村神社跡	反辺 平田	神社跡	139	天土平施寺	波根 天土平	寺院跡
	68	湯村城跡	反辺 平田	城跡	140	松田合横穴群	波根 露屋谷	横穴
	69	燕山古墳	大呂 八幡	神社跡	141	金比羅山横穴群	波根 金比羅山	横穴
	70	八幡古墳	大呂 山木	古墳	142	幸田谷横穴群	波根 田長	横穴
71	紫雲山城跡	大呂 山木	城跡	143	田長横穴群	波根 田長	横穴	
	72	三ツ森城跡	大呂 八幡	城跡	144	上川内空跡	波根 上川内	城跡



第3図 屋形遺跡周辺の製鉄関連遺跡 ($S=1/100,000$)

第3表 屋形遺跡周辺の製鉄関連遺跡

	番号	遺跡名	所在地
多 伎 伎 町	1	扇形遺跡	奥田篠
	2	赤松鉢穴	久村 赤松
	3	道ヶ崎鉢跡	小川 通ヶ崎
	4	若ヶ原奥鉢跡	小田
	5	琴谷鉢跡	奥田儀
	6	聖谷男・遺跡	奥田篠
	7	聖谷奥・遺跡	奥田儀
	8	西明原の前鉢跡	小川 西明
	9	西明原鉢跡	小川 西明
	10	京のそね鉢跡	小川 西明
佐 佐 町	11	掛瀬鉢跡	奥田篠 挂瀬
	12	挂瀬谷・鉢跡	奥田篠
	13	尾敷谷・鉢跡	奥田篠
	14	越敷谷・鉢跡	奥田篠
	15	吉本鍛冶屋跡	奥田篠 宮本
	16	草谷井銀治屋跡	口田儀
	17	越室鉢跡	口田儀 越室
	18	越室鉢・鐵冶屋跡	口田儀 越室
	19	足田原鉢跡	乙立町 足田原
	20	ヤゼン谷製鉄跡	常楽寺
湖 陵 町	21	倉見谷製鉄跡	常楽寺
	22	清谷鉢穴	常楽寺
	23	仙谷鉢穴	烟村
	24	小僧ヶ谷鉢穴	烟村
	25	小ノ谷鉢穴	烟村
	26	宝源資谷鉢跡	朝原 宝坂芦谷
	27	石子谷鉢跡	朝原 郡
	28	寺瀬鐵冶跡	朝原 寺瀬
	29	矢瀬谷・奥鉢跡	反辺 町
	30	横尾奥鉢跡	吉野
佐 出 町	31	否水鉢跡	反辺 否水
	32	横瀬鉢跡	反辺 混西
	33	七瀬谷鉢跡	反辺上 落合
	34	旭内鉢跡	反辺 混西
	35	大寺合鉢跡	八幡原 札場
	36	御壁堀鉢跡	八幡原 川北上
	37	毛汗鉢跡	森田 五谷
	38	久保田鉢穴	一戸山
	39	加賀谷鉢跡	一室川 加賀谷
	40	草木谷古鉢跡	東村 本郷
市	41	草木谷新谷鉢跡	東村 草木谷
	42	東村鉢穴	東村
	43	愛地鉢跡	東村 愛地
	44	神出古鉢跡	東村 本郷
	45	別所鉢跡	反辺 別所
	46	白瀬鍛冶跡	原田 白瀬
	47	白瀬鉢跡	原田 小林
	48	東山小・鉢跡	大呂 東山中
	49	山ノ平鉢跡	大呂 上組
	50	橋畠鍛冶屋跡	大呂 上組
佐 田 町	51	大内鉢跡	大呂 御橋
	52	打尾鉢跡	大呂 打尾谷
	53	打尾1・2号鉢跡	大呂 大山
	54	打尾鍛冶屋跡	大呂 上組
	55	人山鉢跡	大呂 大山
	56	轟谷鉢跡	大呂 人山
	57	岩瀬上鉢跡	大呂 御橋
	58	竹ノ下鉢穴	大呂
	59	大根谷2分鉢跡	大呂 大山
	60	大根谷1号鉢跡	高津屋
田 田 町	61	朝日鉢跡	高津屋 朝日
	62	田床鉢跡	高津屋 田床
	63	吉原鉢跡	古野 古野
	64	吉野古鉢跡	吉野 下鉢
	65	吉ノ木鉢跡	吉野 吉ノ木
	66	小早江追鉢跡	吉野 小早井
	67	古野村鉢穴	吉野
	68	横屋裏鉢跡	吉野
	69	水谷鉢跡	吉野 水谷
	70	北原鐵冶跡	吉野 北原
佐 出 町	71	新田原鉢跡	吉野 新田原
	72	曾沢鉢跡	吉野 曾沢
	73	木下鍛冶屋跡	上輪波 門曲
	74	室の本鉢跡	吉野 室の木
	75	梅ヶ尻鉢跡	吉野 梅木谷
	76	梅ノ木谷鉢跡	吉野 梅木谷
	77	保井谷鉢跡	上輪波 保井谷
	78	横原遺跡	上輪波 優原
	79	柳瀬鉢跡	上輪波 門曲
	80	空山鉢跡	上輪波 宮の部
大 田 町	81	佐津山鉢跡	山口町 佐津目
	82	日ノ平鉢跡	山口町 佐津目
	83	橋ヶ原鉢跡	山口町 山口
	84	熊越鉢跡	山口町 山口 熊越
	85	船木谷鉢穴	山口町 山口
	86	才賀鍛冶屋跡	富山町 才賀
	87	多根鍛冶屋敷B遺跡	大田 多根
	88	多根鍛冶屋敷A遺跡	大田 多根
	89	野城鉢跡	大田 野城
	90	久谷鉢跡	大田 野城

参考文献

- 1) 多伎町誌編集委員会1978『多伎町誌』
- 2) 田儀村誌編纂委員会1961『田儀村誌』
- 3) 平成16年1月1日現在「多伎町土地総括表」
- 4) 角川書店1979『角川日本地名大辞典 32島根県』
- 5) 平凡社1995『日本歴史地名大系第33巻 島根県の地名』
- 6) 渡辺勝治1996『田儀櫻井家年代記』(自費出版)

なお第2図は遺物散布地を除く。また第3図は、島根県教育委員会編・刊『島根県遺跡地図I(出雲・隠岐編)』(2003)、『島根県遺跡地図II(石見編)』(1988)を基本に、島根県古代文化センター編・刊『古代文化研究』10号、森山一氏著『奥田儀宮本桜井家文書目録』の図-1、佐田町教育委員会編・刊『朝日遺跡発掘調査報告書』を参考にして作製した。

第3章 調査の結果

第1節 発掘調査の経過と遺跡の概要

田儀川は大田市三瓶町小豆原に発し数本の支流を合わせて田儀湾の西部で海に注いでいる。その田儀川の支流宮本川沿いの道路は、田儀櫻井家本宅を過ぎたあたりで2本にわかれる。南は福羅谷から大田市山口町佐津目に向かう。西へは屋敷川沿いに宮本の谷が続く。林道宮本聖谷線開設予定地の宮本側終点である。屋形遺跡はその分岐点から屋敷川上流約700mの地点にある。

現地は最近まで個人の所有林であり防災上から保安林でもあった。明治末頃に杉、檜が植林されて以後、森林関係者の入山はあるものの人の手が入っておらず、深い草木に覆われていた。

屋敷川の西北の標高約148mの丘陵上は尾根が南方に寄り北方にむかっては比較的なだらかな斜面である。そこを削平、盛土して3段の平坦面を造成しているが、ここに調査区I~IV区を設定した。そして川を隔てて対岸の南西に突き出した丘陵上の平坦面、標高約150mにIV区を設定した。

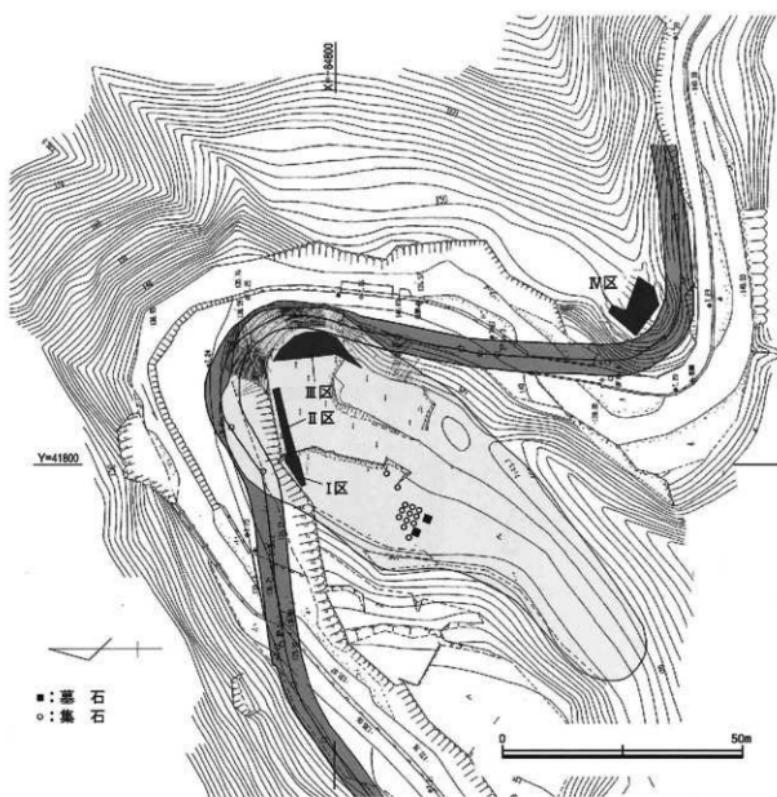
発掘調査の範囲調査の時点では、調査予定期面積は500m²でありIII区のみが調査範囲とされていた。しかしI区とII区の間にある石垣は工事予定地内のため掘削される危険がある。同様に工事予定地内においては可能な限り、遺構・遺物の有無を確認すべく上述の調査区を設定した。最終的な調査区の面積はI区16.82m²・II区24.8m²・III区63.47m²・IV区282.14m²で合計387.23m²となった。

I区~IV区、すべて地山は砂礫を含む真砂土であった。真砂土は花崗岩の風化土で透水性は良く調査を通じて雨水の浸水による遺跡の被害はなかった。しかし、もろく一部岩盤の崩壊している箇所もあった。

以下調査区ごとに詳細を述べる。



第4図 林道宮本聖谷線開設予定地内遺跡と計画路線図 (S=1/25,000)



第5図 屋形遺跡全体と調査区配置、道路開設予定図 ($S=1/1000$)

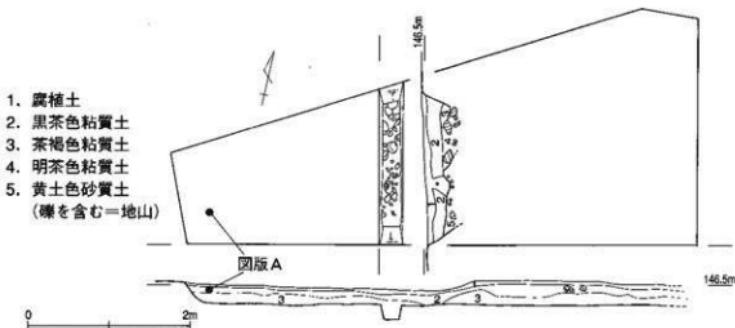
第2節 I区の調査

I区は調査区の西端、標高約146.5mに位置し、石垣によって一段低くなっている。II区との比高差は約130cmである。調査対象は狭いが、平坦に加工した面はI区を含め幅(東西)12m、奥行き(南北)30mと広がりを持つ。工事予定地外は植林が残り、腕で抱えきれないほどに幹は育っている。

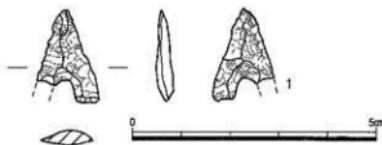
腐植土を剥ぐと下に10cmほど自然堆積がありその下は地山であった。地山は角張った礫を含む黄土色の砂質土(真砂土)である。I区中央にサブトレーンチを南北に入れた結果、北側斜面に近い部分には地山の礫とは異なった、丸みのある礫の混じった土砂の上に自然堆積している。北側の地面の傾斜を均すことを目的とした盛り土が行われたと考えられる。

腐植土を剥いだ面(第1面)が生活面であるが、遺構は検出できなかった。出土遺物は黒曜石の剥片が1点(図版のみ 遺物番号A)である。I区西端、腐植土を剥がした点 標高146.45mで出土した。

屋形遺跡のI区～III区で黒曜石製鐵も採取したが、残念ながら出土地点が不明である。この鐵²⁾は無茎石鐵で凹基式と思われる。縄文時代の石器であろう。



第6図 I区実測図 ($S=1/60$)



第7図 I～III区出土石器実測図 ($S=1/1$)

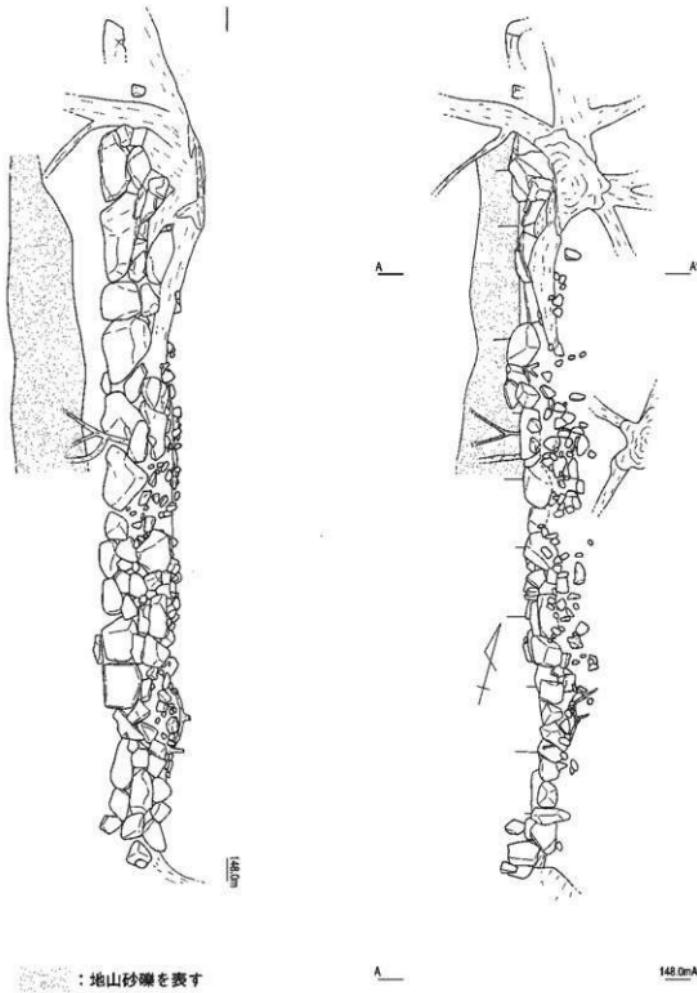
第3節 石垣の調査

I区とII区の間に石垣が築かれている。これは調査前より判明していた。石は丸石の乱積みで下段の基礎の部分に大きくて重い石を2段据え大端に近いところは小さい石を積んで均している。植林とその後の根の侵食によって築造時の位置からずれている（第8図の断面図中のアとイはもともとひとつの大きな石であったが根によって、割れている。）にもかかわらず崩れることなく安定している。

上層の堆積より、地山を削る一段を加工する→旧表土である黒ボク層から石を積む。地山の砂礫層を裏込める→石を積む→裏込める を数度繰り返し石積を完成していると看取できる。

「本来強固な石積にするためには、石の奥行き（控）を長くとり、一定の法勾配で積むが、ここでは石の…番広い面を表面（つら）にし短い面を奥行き（控）にして積んでいたり 垂直に近い積み方であったりする。また石積の基本である谷積は石の先（とも）を下げるが ここでは水平に近い。非常に不安定な危険な積み方である。」石積経験のある発掘作業員の福庭氏は以上のように説明された。

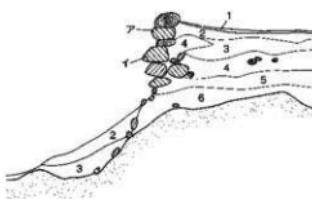
この石垣は南方に向かって21m続いている。石垣からは遺物の出土はなかった。



：地山砂礫を表す

1. 腐植土
2. 黒茶色粘質土
3. 黒茶色粘質土 固くしまる
4. 黄土色粘質土 一部砂礫を多く含む
5. 黒ボク
6. 茶褐色粘土質

0 2m



第8図 石垣実測図 ($S=1/40$)

第4節 II区の調査

II区は丘陵の北端部沿いで調査対象ではなかったが、工事予定地内を当初0.8m×12.0mのトレンチを設定し調査した（最終的には1.8m×12.0m）。腐植土と自然堆積上を剥ぐと地山と思われる砂礫の混じった黄土色（真砂土）が現われ、この面で精査レピットを3穴検出した。

P 1

覆土 P 1 の上層は締まった黒茶色粘質土で炭化物を含み下層は明茶色粘質土である。

出土遺物 無し。

P 2

覆土 P 2 も上層は締まった黒茶色粘質土で炭化物を含み下層は黄土色粘質土でこれは地山の土と思われる。

出土遺物 9-2 は鍛冶滓である。P 2 の北端の上端から出土した。中央部が炭の形に凹んでいる。

P 3

覆土 P 3 も上層は締まった黒茶色粘質土で炭化物を含み下層は茶褐色粘質土であるが、上層と下層の間に炭化物が多く出土した。

出土遺物 無し。

遺構の性格

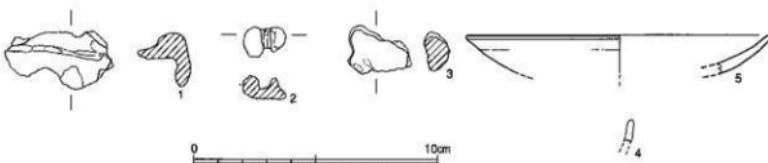
P 2 の周辺は土が少し赤味がかっていたので鍛冶鉢跡かと看取したが、土が焼けた形跡は無く鉢ではない。また P 3 の炭化物の帯は鉢のカーボンベッドではないかと思われたが、それにしては炭化物が少量過ぎる。よって P 1 ~ 3 は鍛冶鉢に関係ない。北端部の稜には平行に 2 から 2.5m の間隔で並んでいるので 安全防護用の柵列ではないかと考える。

P 1 ~ 3 が調査区の南壁にあたり、遺構の全体が不明なので確認のため調査区を広げているときに地山と思われていた砂礫層と下層の黒ボクの間から 9-4 と 9-1 が出土した。9-4 は磁器だが小片のため種別及び時期は不明である。9-1 は何かの容器の破片、すなわち鉄製品の形を呈するが、X線撮影の結果鉄の密度が均質ではない。ガスの穴があり鉄鉢のかたまりである。

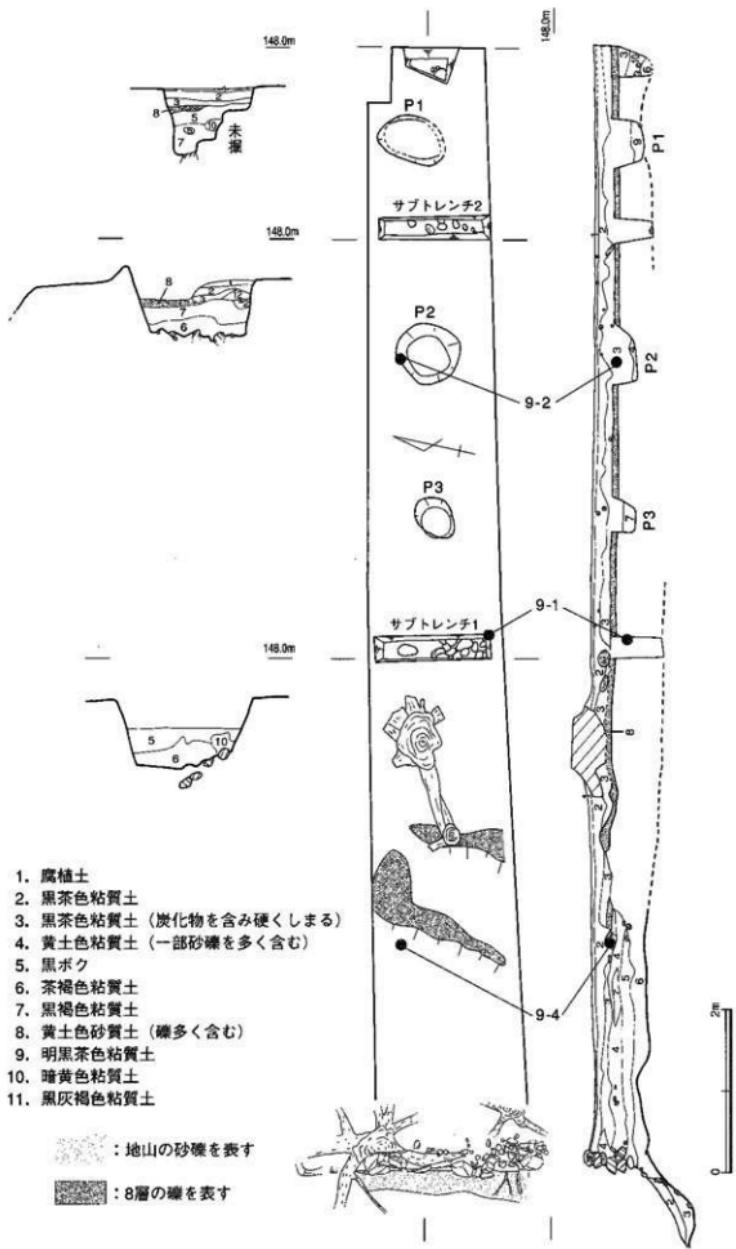
上述の遺物出土により地山を確認するためサブトレンチを 2 箇所開けた。

サブトレンチ 1 の土層は地山～茶褐色粘質土～黒ボクの層序は石垣と同じである。サブトレンチ 2 は地山～茶褐色粘質土～黒褐色粘質土（黒ボクと同じか）～砂礫を含んだ黄土色粘質土となりこれが II区 調査当初地山ではないかと思われていた土であった。サブトレンチの結果、これは削った地山の土砂で北方の自然傾斜部を平坦に均したがその際、丘陵の奥からの土砂が混じり上述の遺物が流入したものであろうとの見解である。

II区西部に砂礫が集積している。この並びを奥に向かって延長すると南奥の石垣の並びに結びつく。このためこの砂礫が第 1 石垣面かも知れない。しかし全体を調査していないので断言はできない。



第9図 II、III区出土遺物実測図 (S=1/2)



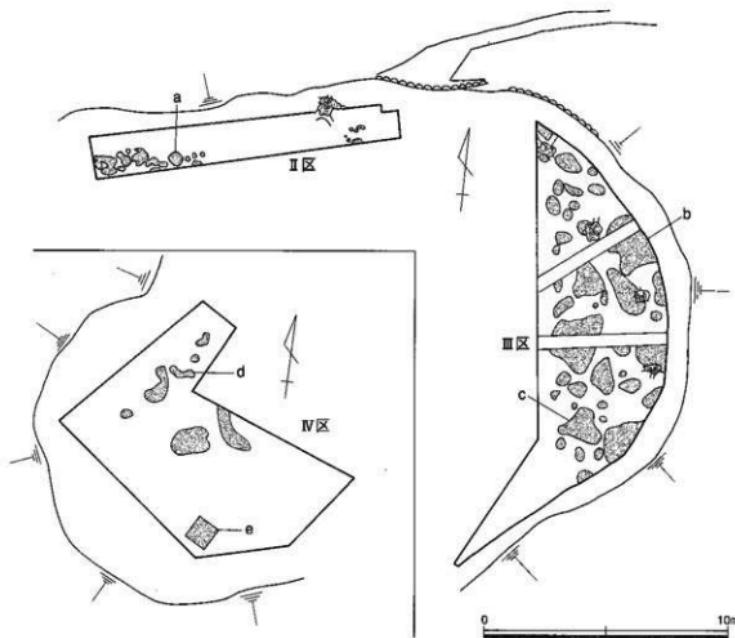
第10図 II区実測図 ($S=1/60$)

第5節 III区の調査

III区は丘陵の上、北東部に突き出た部分である。南北約18.5m、東西の最大幅約5.5mの半月状の調査区を設定した。

腐植土を剥ぎ終えた時点で黒く炭が分布していたので II区・IV区とともに炭の分布と鉄滓の有無を確認した。鉄滓はなかったが、砂鉄が採取されたので炭の分布と関係があるかどうか、サンプルをとって確認した。

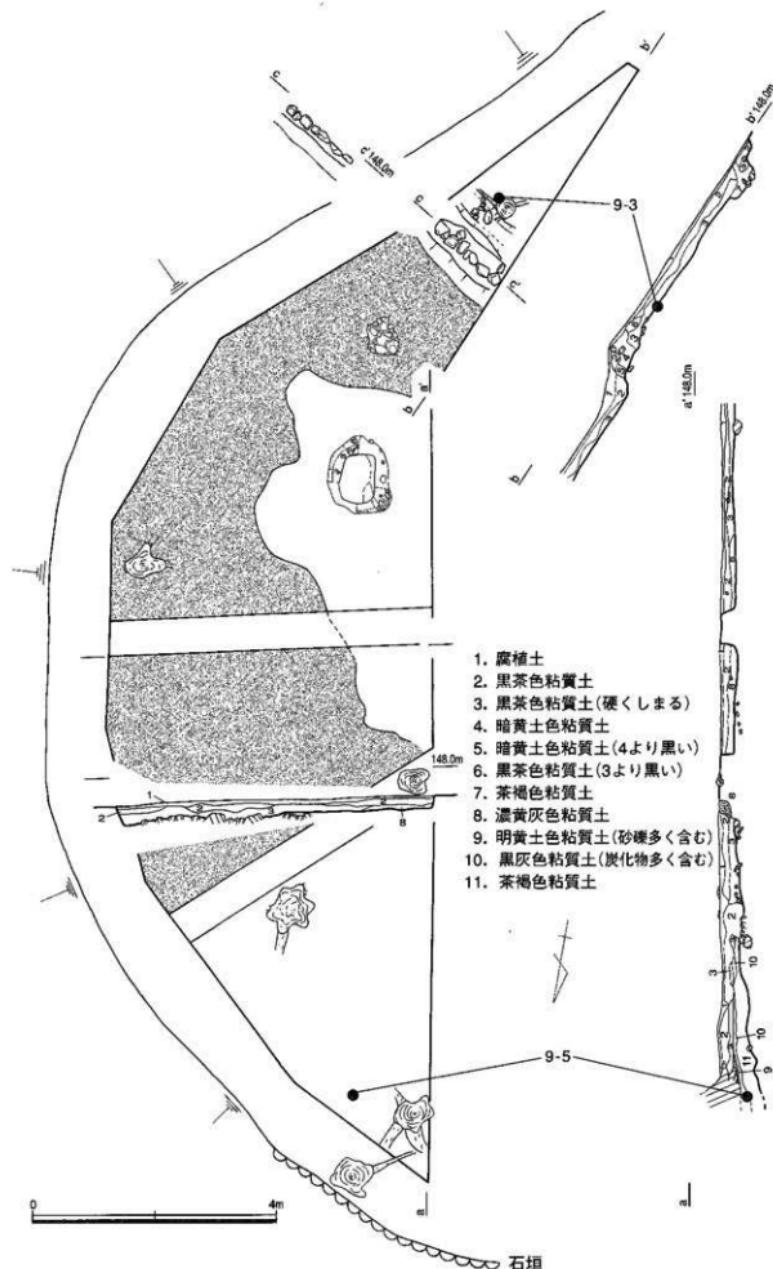
その結果砂鉄は特に炭とは関係ないことがわかった。



第11図 炭の分布 ($S=1/200$)

第4表 砂鉄の割合

サンプル番号	調査区	砂鉄の重量(g)	面積(m ²)	密度(g/m ²)
a	II	0.04	0.27	0.15
b	III	0.36	2.85	0.13
c	III	0.18	1.51	0.12
d	IV	0.30	0.23	1.30
e	IV	0.37	1.00	0.37



第12図 III区実測図 ($S=1/80$)

腐植土と自然堆積土を剥ぎ取り精査した。P 4、P 5を検出した。

P 4

覆土 黒茶色粘質土で地山の砂礫が混じる。

出土遺物 無し。

性格 幅（南北）約80cm、幅（東西）約50cm、高さ約50cmの大きな石の据え方である。出土遺物が無いため断定はできないが屋敷の庭石であろう。石は平面が四面ある方形であるにもかかわらず、斜めに据えられていた。水平であれば建物等の礎石とも考えられる大きな石である。水平に据えたのが移動した痕跡もない。石自体に脂（やに）のような黒く水を弾くものが付着していた。

P 5

覆土 上層が黒茶色粘質土で自然堆積土の流入であろう。下層が暗黄土色粘質土。

出土遺物 無し。

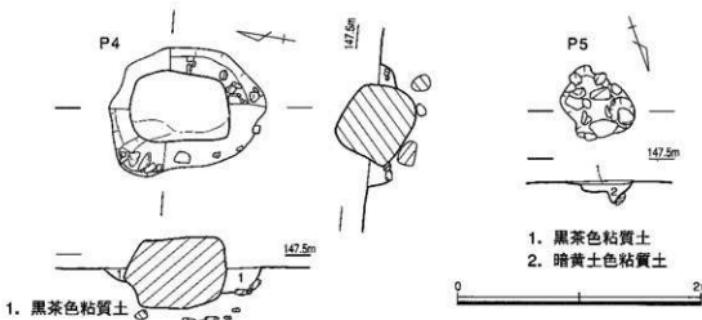
性格 不明であるが、位置的には安全防護柵跡と考えられる。

検出遺構は以上であるが、遺構検出精査時の標高は約147.3mで地山の砂礫面が現れた。しかしP 4の周辺のみ少し黄味がかった黒灰色粘質土面であった。粘性が高く土間の貼土かと看取るが、早計か。

Ⅲ区北端部で陶器片が1個出土した9-5。出土位置はⅡ区と同様、黄土色砂礫層と下層の黒ボクの間であり地山を削って出た土砂を 斜面を均すのに流用しそのときに土砂に混じって流れ込んだものであろう。銅線軸が施釉された肥前系陶器の皿の口縁部である。銅線釉陶器は17cからあるが、これは新しく19c初、江戸の終末期以降である。また北端部の稜の一部に石積みが残っており（第11図参照）そこから坂道状になって岩盤の崩壊部まで続いているのが確認された。

Ⅲ区南端部は一段高くなる。調査前は現れていなかった石積みが上述の遺構検出時に出土した。I、II区間の石垣とは異なり大きくて直径約25cmの石が二段積まれており、北西（山の奥）方向に続いている。石積みによる北側と南側との比高差は約70cmであった。

上層観察より北側の地山を削って南側に盛り土し石を積んでいる。石積みの南側の地山直上より鉄滓が1個出土している9-3。これも鍛冶溝で鉄密度の薄い部分がある。



第13図 P 4、P 5 遺構実測図 (S=1/40)

第6節 IV区の調査

IV区はI～III区からみると崖敷川をはさんだ対岸の丘陵地上に位置し、平坦面が広がっているように見える。しかし実際に現地に立つと第5図でもわかるように約1.75mの比高差があり傾斜している。

そこで調査区を東西に縦断するサブトレンチ（10.0m×0.5m）にて遺構の有無を確認した。ピット状の落ち込みがあったが、これは動植物による搅乱であろう。また西端より東へ5mは地山を削平しているようであるが遺構は検出できなかった。黄土色粘質土（真砂土）の地山が出たが、砂礫を含んでいなかったため、砂礫層まで掘削した。

表上より0.5m低い地点で石器が出土した14-2。これは黒曜石の剥片で第2次加工のあるものであり、時期はI～III区で出土した石器と同じく、縄文時代である。

石器の出土により縄文時代の遺構の確認のため出土地点を中心に3m×3mのサブトレンチを設定し精査しピットを6個検出した。いずれも出土遺物が無く、ピットの性格は不明である。

P 6

覆土 黒茶色粘質土、自然堆積土の流入である。

P 7

覆土 上層は赤味がかった黒茶色粘質土で炭化物を含む。下層も黒茶色粘質土である。

P 8

覆土 黒茶色粘質土である。土密度が疎で木の実が約20個出土した。

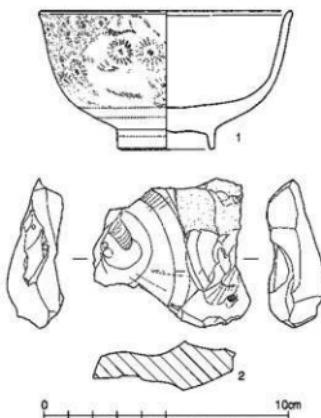
性格 東西に細長い。木の実の貯蔵穴か。

P 9、P 10

覆土 暗黄土色粘質土。

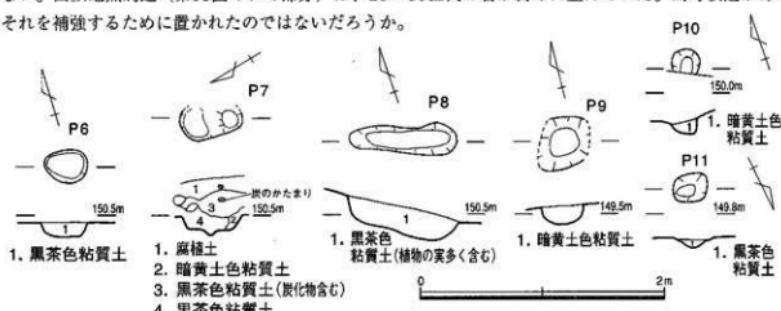
P 11

覆土 黒茶色粘質土、自然堆積土の流入である。



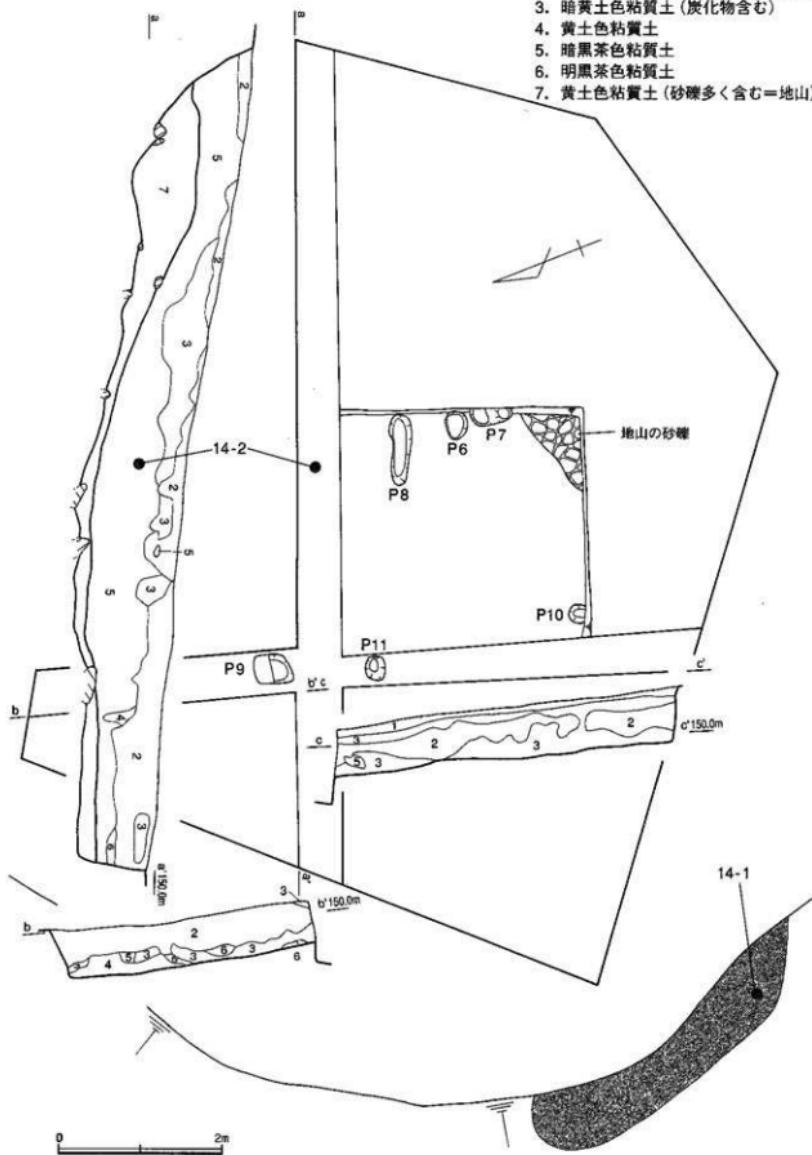
第14図 IV区出土遺物実測図 (S=1/2)

IV区の西端の斜面で磁器が出土した14-1。明治～大正の瀬戸の碗で全面銅板墨紙印刷による施釉がある。これは量産品で広く普及している。したがって人間の生活の跡=遺構が存在する証明にはならない。出土地点周辺（第16図のアミ部分）は、20～50cm大の石が斜めに並んでいた。當時坂道がありそれを補強するために置かれたのではないだろうか。



第15図 P 6～P 11遺構実測図 (S=1/40)

1. 黒茶色粘質土(炭化物含む)
2. 黒茶色粘質土(硬くしまり炭化物含む)
3. 暗黄土色粘質土(炭化物含む)
4. 黄土色粘質土
5. 暗黒茶色粘質土
6. 明黒茶色粘質土
7. 黄土色粘質土(砂礫多く含む=地山)



第16図 IV区実測図 ($S=1/60$)

- 現地で伐採後の切り株の年輪を測定した。94、90、91と3本測定して平均値=92年前を出した。
- 石器に関する年代その他は、文化財課丹羽野氏にご指導いただいた。
- 鉄生産関係遺物に関しては、穴澤 義功氏に御助言いただいた。
- 陶磁器に関しては、文化財課西尾氏、埋蔵文化財調査センター守岡氏に御助言いただいた。

第5表 屋形遺跡出土陶磁器観察表

挿図番号	写真図版	出土地点	種別	器種	法量(cm)			粘土	釉薬
					口径	底径	器高		
9-4	卷頭カラー	II区No2	磁器	不明	—	—	—	精緻	透明釉
9-5	卷頭カラー	III区北No3	陶器	皿	(12.6)	—	—	織密	銅緑釉
14-1	卷頭カラー	IV区No4	磁器	碗	10.2	4.0	5.7	精緻	呉須

第6表 屋形遺跡出土石器観察表

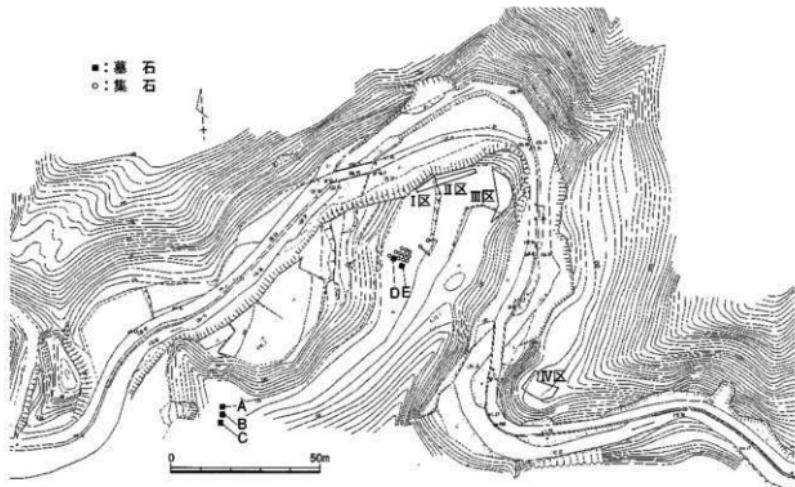
挿図番号	写真図版	出土地点	種別	器種	重量(g)	法量(cm)			備考
						長さ	幅	厚さ	
7-1	卷頭カラー	I~III区表探	黒曜石	鐵	0.52	1.9	(1.4)	0.3	
14-2	卷頭カラー	IV区No2	黒曜石	剥片	58.69	5.8	6.0	2.0	二次加工あり
なし	卷頭カラーA	I区No1	黒曜石	剥片	0.22	1.3	1.1	0.25	

第7表 屋形遺跡出土鉄関係遺物観察表

挿図番号	写真図版	出土地点	種別	法量(cm)			備考
				長さ	幅	厚さ	
9-1	卷頭カラー	II区No4	鍛鉄	4.5	2.1	2.0	
9-2	卷頭カラー	II区No3	鉄滓	1.2	1.8	0.8	鍛冶滓
9-3	卷頭カラー	III区No4	鉄滓	2.4	1.8	1.0	鍛冶滓

第4章 まとめ

第17図に示しているように屋形遺跡周辺には墓石が点在している。転倒していたCを除いてすべての墓石の銘文から年号が判明した。これにより江戸終末期に人々が生活していたことがわかる。墓石はI区の平坦面上もしくはその延長線上にあり屋形遺跡と深く関係していた人間の墓と思われる。A, E, Dは円頭方柱形である。またAは田部姓である。これはあるいは、吉山村菅谷鉢の田部氏関係者である可能性もある。



第17図 屋形遺跡周辺の墓石 ($S=1/1,500$)

第8表 屋形遺跡周辺 墓石の銘文表

E			D			C			B			A		
南	北	東	北	南	東	南	北	西	南	北	西	北	西	面
市五郎	九月廿七日	天保十亥	天保十五寅	俗名林藏	祇	廿才	太宰	腰越谷	一月十四日	天保十三寅	眞位	田部平重	慶二丙寅年	釋廣善吉士
	辰五郎	秋義照信上	廿五日	大保十二寅		八十才	太宰	藏				此壽五十有二	亡父	銘文
	1839年			1842年	円頭方柱	転倒			1842年	円頭方柱		基礎一段はめ込み	1866年	円頭方柱

* ■は不明確ながらもある程度判別できた

この度の調査では屋形遺跡の先端部分のみが対象であったため、屋形遺跡の性格を明確にできるような遺構の検出、遺物の出土はなかった。しかし第3章で述べたように鉄鉄のかたまり9-1がII区で出土した。島根県埋蔵文化財調査センター主幹、角田 徳幸氏によるとこれはたら（製錬）によってできたもので、大鍛冶（精錬）の原料である。大鍛冶を行うためにたら場から運んできたか、もしくは、たら場が屋形遺跡内かその付近に存在したと推察することが可能である。また出土した鉄滓は少數ではあるがいずれも鍛冶滓であった。これは屋形遺跡内かその付近に鍛冶鉢が存在する可能性を示す。

またP4に大きな石が据えられているのは屋敷の庭先の庭石であろうと思われる。

丘陵の緩斜面を掘削し、3段に広大な平坦面を造成。石垣、石積がそれぞれの敷地の境界線であったのでは、なかろうか。

以上の考察から導き出されるものは、屋形遺跡は田儀櫻井家が操業していた鉄生産関係者の屋敷跡である。それとどまらず、屋形という地名、屋敷の広さ、そしてP4が庭石であるとするなら、見晴らしのよい北側先端部に庭を構えている。このようなことを重ね合わせると、一般の山内従事者ではなく櫻井家の鉄生産の経営を進めていた人物の屋敷である可能性もある。

今回の調査で屋形遺跡は田儀櫻井家のたら場製鉄に關係する非常に大切な遺跡であることが明らかになった。今後さらに調査研究を継続して屋形遺跡全体の性格を解明する必要があると考える。



図版2



I～II区、石垣調査前（西より）



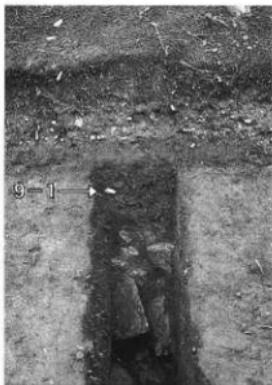
I～II区、石垣調査後（西より）



石垣（南より）



II区遺構検出状況（東より）



II区遺物出土状況（北より）



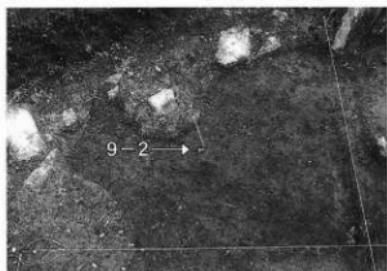
III区遺物出土状況（西より）



II区西侧遺構検出状況（南より）



II区東側遺構検出状況（南より）



P 2 遺物出土状況（南より）



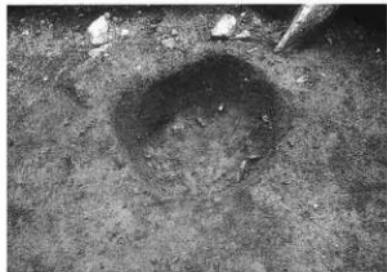
P 1 完掘状況（南より）



P 2 土層堆積状況（南より）



P 3 土層堆積状況（南より）



P 2 完掘状況（南より）



P 3 完掘状況（南より）

図版4



III区炭の分布（東より）



II区炭の分布（東より）



IV区炭の分布（東より）



I区遺物出土状況（南より）



II区遺物出土状況（南より）



III区完掘状況（東より）



P 4 石と据え方 (東より)



P 4 石と据え方 (北より)



P 4 石と据え方 (西より)



P 4 石と据え方 (南より)



III区石積み (南より)



III区石積み (北より)



III区石積み完掘状況 (東より)



← 9-3

III区遺物出土状況 (南より)

図版 6



P 5 土層堆積状況（北より）



II区西部石の配列（南より）



P 5 完掘状況（西より）



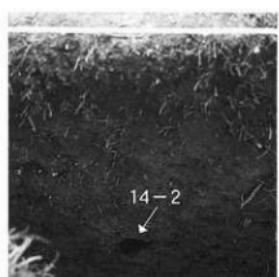
IV区調査前（東より）



IV区調査検出状況（東より）



IV区調査後（東より）



IV区遺物出土状況（南より）



IV区遺物出土状況（南より）

報告書抄録

フリガナ	ヤカタイセキ							
書名	屋形 遺跡							
副書名	田儀櫻井家製鉄関連遺跡の調査							
シリーズ名	林道宮本聖谷線開設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号	I							
編集者名	田中 義昭 阿部 智子 江角 ひろみ							
編集機関	多伎町教育委員会 URL http://www.etaki.jp/gyousei/kyouiku.htm							
所在地	〒699-0903 島根県簸川郡多伎町大字小田73 TEL(0853)86-2853 E-mail:kyouiku@town.taki.shimane.jp							
発行年月日	西暦2004年7月							
フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ヤカタ イセキ 屋形 遺跡	シマネケンヒカワゴン 島根県簸川郡 タキチョウ 多伎町	32403		35度 14分 04秒	132度 37分 33秒	20040405 ~ 20040610	400m ²	道路建設
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構	主な遺物		特記事項	
屋形遺跡	生産	近世 ~ 近代		石垣 柵列	黒曜石製石器 陶磁器 鉄関係遺物			

屋形遺跡

林道宮本聖谷線開設予定地内
埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ

2004年7月発行

発行 島根県出雲農林振興センター
島根県多伎町教育委員会

編集 島根県多伎町教育委員会
〒699-0903 島根県簸川郡多伎町大字小田73
TEL 0853-86-2853

印刷 有限会社伊藤印刷